

なんば広場とグラングリーン大阪

井澤知旦



【なんば広場】

名古屋から大阪へ近鉄で行けば難波が終点となります。今回、二人座席の「ひのとり」に乗車しましたが、広告にあるような一人座席はすぐに売れてしまい、残念ながら「ひとりの」を楽しめませんでした。

さて、本題。難波の駅前の道路やタクシーベイを取っ払って、なんば広場（約 6,000 m²）+なんさん通り（北）という歩行者専用空間（二つ合わせて“なんば広場”と呼ぶ）を歩行者利便増進道路（通称：ほこみち）として整備し、2025 年 9 月に全面オープンしました。

コトの発端は 2011 年に「安全安心にぎわいのまちづくり」を進める地元の企業や団体が協議会を設立し、その後いくつかの社会実験を通じて検証しながら、2022 年から広場や通りの整備が行われ、オープンに至った経緯があります。



なんば広場を御堂筋側から眺める。石段のベンチ(固定式)と木陰が提供されている。



なんば広場の中心。雨上がり直後なので、多少チェア&テーブル(可動式)が空いている。

地下鉄、南海、近鉄、JR、阪神のなんば（難波）駅の合計乗降客数は90万人/日にものぼります。一方、タクシー乗り場が大々的な面積を占めていましたが、1987年～2015年の30年弱で3割～5割（時間帯別）まで待機台数が減少しています。自動車中心から人中心の駅前をつくるのが目的となり、多くの障壁を乗り越えて実現したところに“なんば広場”の偉大さがあります。「批判は易し、実現は難し」なのです。

雨上がりの曇天から快晴への移り変わりのなかで、人々はチェア&テーブルやベンチ風石段を使って、一人休憩や友人とのコミュニケーションなど、くつろぐ姿が見て取れます。“なんば広場”の西を南北に通る御堂筋も歩道を十二分に拡幅して、余裕があります。



なんば広場で人々がくつろぐ風景。だいたい人々が集まってきた。



なんば広場界隈の案内図



なんば広場西側を南北に走る御堂筋の拡幅された歩道。ゆったりと歩ける空間が提供されている。



なんさん通り(北)の歩行者天国。午前1時～9時までは荷物の搬入ができる。



来場証拠写真として、灰ポーズ、いやハイポーズ。まだこの世にいるのだ。



なんば広場と繋がる民間施設の通り抜けできる公開空地。ここにも座る場所はきちんと配置されている。



NAMBA のモニュメントで記念写真を取ろうとする外国人。男性のTシャツには「最高の旦那」という文字が。きっと、そうなんだろう。

駅から駅前広場へ出た時のインパクトは印象に残るものです。ライプチヒ（ドイツ）では目の前のホテルの壁面一杯に絵が描かれていて、何と楽しい町なんだろうと思わせます。アムステルダム（オランダ）の中央駅に降り立った時に、駅前の自転車駐輪の多さにびっくりし、さすが自転車王国と感心したものです。“なんば広場”も来訪者にインパクトを与えるにはもう一工夫必要かもしれません。



ライプチヒ駅前(ドイツ)にあるホテル。壁面全面を使って、アートが描かれ、来訪者を楽しい気分にする、眼前に広がるインパクトある景観だ。



アムステルダム中央駅(オランダ)横にある大規模駐輪場。自転車王国だけにすごい。インパクトが大きすぎる。人口以上に自転車が所有されているので、置き場所が課題。

難波の地下街は複雑に発達しているので、そこでのゴチャゴチャ感や混雑感と地上に出るとスッキリ感や開放感との対比を感じることができます。いいことですね。何度か訪れていますが、変わってしまえば、昔の難波駅前のことはすっかり忘れ去られてしまいます。

【グラングリーン大阪】

グラングリーン大阪は梅田貨物駅跡地の開発で、そこは「うめきた」（大阪駅北）と呼ばれ、先行開発区域はグランフロント（約7ha）、二期をグラングリーン（約17ha）と呼んでいます。前者は2013年にまちびらきが行われ、すでに12年経過しました。後者は2027年春を予定していますが、2024年9月に先行まちびらきが行われました。うめきた全体のテーマは「ナレッジ・キャピタル構想」であり、2期グラングリーンは「みどりとイノベーションの融合拠点」形成として位置づけられました。

グラングリーン大阪の特徴はビル群を北端と南端に集約し、中央部分に4.5haの大規模な公園（うめきた公園）を配したことです。大規模ターミナル駅直結の公園として世界最大規模と呼ばれています。都心に超高層ビル群だけでなく、都心にこそ公園という「都市の余白」が提供されています。

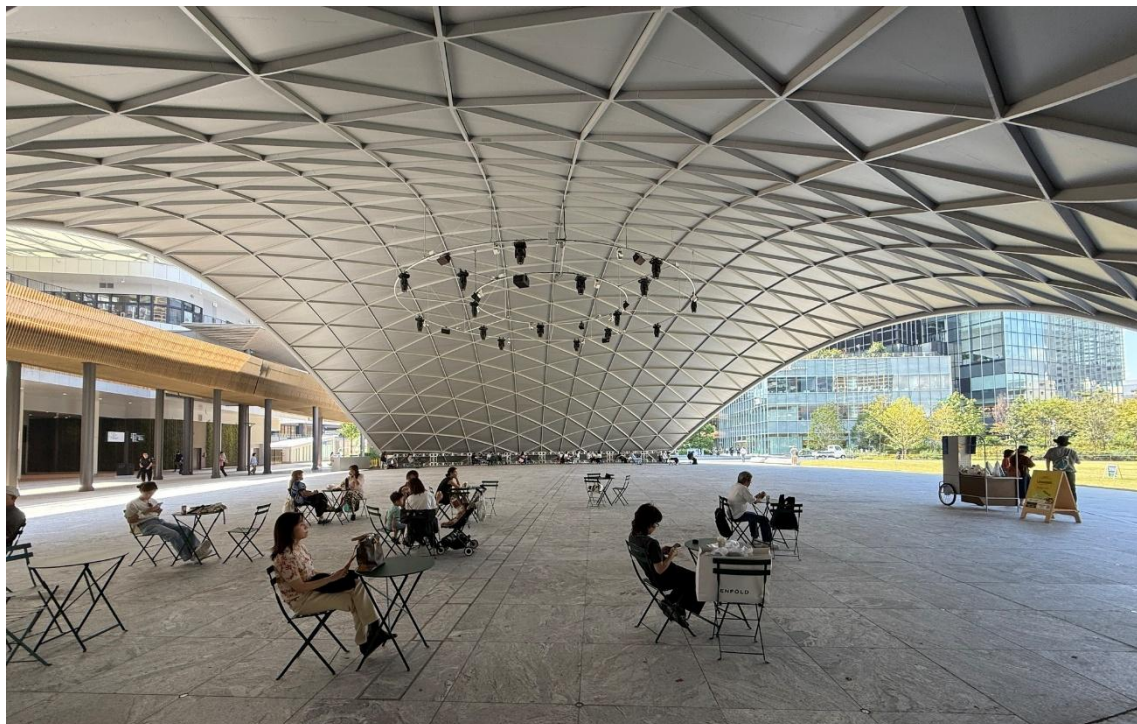


グラングリーン大阪の案内図。サウスパークは先行的にオープンし、ノースパークは一部のみ供用開始されている。

うめきた公園はサウスパークとノースパークに分けられますが、サウスパークには5,100 m²の芝生広場と屋外イベントスペース（ロート・ハートスクエア・うめきた）があり、1万人のイベントができるようです。



サウスパークの芝生広場と噴水池、そして屋根付き屋外イベントスペース。

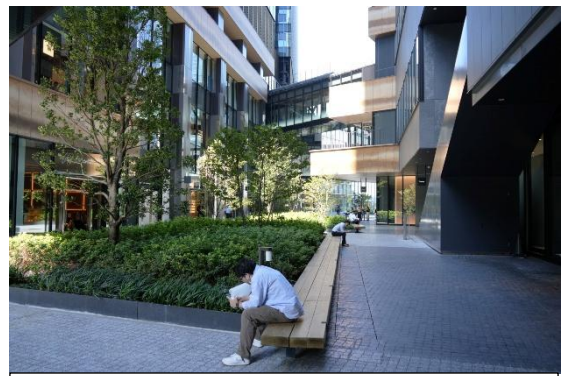


屋外イベントスペース（ロート・ハートスクエアうめきた）。猛暑日や雨天時には屋根（陰）が不可欠である。冬場は寒いんでしょうね。

子ども達は炎天下でも水遊びに興じ、大人達は木陰を求めて、休息空間を求める。35℃を超える猛暑日はますます増加していくことが予想されるが、グラングリーンに来ると3℃ほど体感温度が下がるような、そんなまちづくりが求められるに違いない。名古屋の三の丸地区（官庁街）はそれを実現する格好の場所にならないか？三の丸だけに3℃下げるのは語呂がいい。



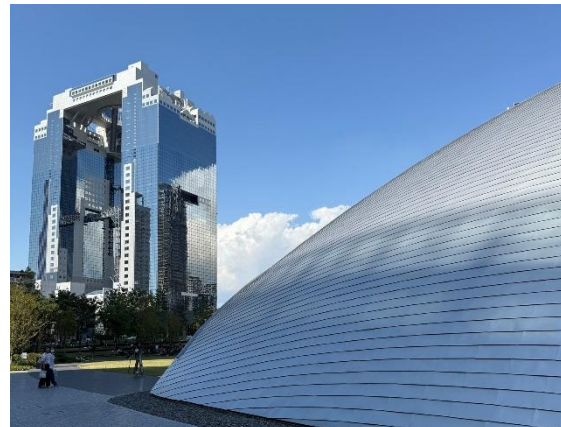
ずぶぬれは誰のせい？私のせい？ 水の精。噴水池で。



南街区のオフィス群の通路空間。高層オフィスが建ち、圧迫感がある。



ノースパークの緑道。炎天下では木陰が不可欠である。



屋外イベントスペースから見た新梅田シティ・梅田スカイビル。絵になるね。

【その都市の底力が試される開発】

「うめきた」は国鉄改革の一環で、大規模貨物駅用地を清算事業団に継承し、その有効活用として開発が進められてきた経緯があります。単純な民間開発ではなく、政策オリエンテッドなまちづくりであるがゆえに、大胆な構想が実現していると言えます。ここでは大阪の底力を見せつけられた気がします。

これからの都市開発は少なくとも50年後にも存在意義のある都市空間となっているのかが問われ、その都市の創造力が試されるのでしょう。

まあ、そのころは天国から（地獄でない）、上から目線で眺め、批評しているのでしょう。知らんけど。

大阪視察（2025.9.29-10.1）最後のレポートでした。



大阪駅ノースゲートビルディングからみたグラングリーンの景観。ノースパークは工事中である。

(2025.10.22)

■大阪市計画調整局・建設局「なんば駅周辺における空間再編推進事業整備プラン概要版」

<https://www.city.osaka.lg.jp/.../nambaseibiplan-gaiyou.pdf>

■大阪商工会議所「『なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画』の策定～なんば駅前広場化の実現に向けて～」2017.4

<https://www.city.osaka.lg.jp/.../nambaseibiplan-gaiyou.pdf>

■大阪市「うめきた（大阪駅北地区）プロジェクト」

<https://www.city.osaka.lg.jp/osakatokei/page/0000005308.html>

■Wikipedia

<https://ja.wikipedia.org/.../%E3%82%B0%E3%83%A9%E3%83%B3...>